

## 商店街に相乗効果

市日が二十八日町商店街に移転

3と8のつく日に開催される市日（市日組合主催）が、電線地中化工事に合わせて二十八日町商店街に移転しました。来年の3月まで同所で開催される予定です。移転初日となった8月23日、出店者の中には「こちらの通りは日当たりが良い。昔はここで開いていましたよ」と懐かしむ声、商店街の店主は「市日のおかげで人がいる。いつもより早く店を開けたら、お客さんが来た。相乗効果ですね」と笑顔を広げていました。



新鮮な野菜や果物が彩りを添えます

## まちづくり地域で考えて

地域づくり講演会を開催

地域づくり講演会は8月31日、市民団体など約200人が参加してアンバーホールで開催されました。まちづくり事例発表では、大川目町まちづくり協議会の小倉利之さんが、7月4日に町内で開いた音楽会を紹介。講演会では、ケアタウン総合研究所の高室成幸所長が「高齢化社会を考える」と題して講演。「町を見ると高齢者にとって大変なことばかり。高齢者の目線に立ったまちづくりを地域で考えましょう」と訴えました。



地域で福祉を考える必要性を訴えました

## 家族で99歳祝い

西リセさんが白寿

西リセさんが8月28日に白寿（99歳）を迎えたことを受け、山内隆文市長が入所先の櫛の里（森寛志施設長）をお祝いに訪れました。山内市長が「白寿」と書かれた直筆の色紙と羽毛布団を贈呈。「これから長生きしてください」と祝福しました。お祝いに駆けつけた西義市さん（長男・77）、小田キヨさん（長女・76）、鳥谷峯レイ子さん（四女・66）は「若い頃は歌や踊りが好きで、よく踊ったりしていましたよ」と思い出に浸っていました。



代理で受け取る義市さん



◀「バタ足はサッカーボールを蹴るように〜」—長田さんの大きな声と児童たちの歓声が響きわたりました  
▼指導は一人ひとり丁寧に。時には泳いでみせて、わかりやすく行われました



## 侍浜中優勝など大活躍

三船十段杯争奪柔道大会を開催



東北各県の強豪が力と技を競いました

東北各地の少年から一般までの柔道選手が技を競い合う三船十段杯争奪柔道大会は9月9日、市民体育館で開催されました。団体戦には77団体、個人戦には189人が出場しました。

本市の出場選手の主な結果は次のとおり。（敬称略）  
【個人戦】▽少年低学年の部第3位＝久松泰斗（三船十段記念館）▽中学校男子の部第2位＝長根巧貴（久慈中）、第3位＝大澤和哉（長内中）▽高校男子の部第3位＝小野寺崇宏（久慈高）▽高校以上女子の部第3位＝本波真維（久慈東高）  
【団体戦】▽少年の部第3位＝三船十段記念館▽中学校の部優勝＝侍浜中▽高校の部第3位＝久慈高▽一般の部第2位＝久慈市柔道協会

## 消防団の大切さ訴え

劇団ふるさとキャラバン公演

劇団ふるさとキャラバンによるミュージカル公演「地震カミナリ火事オヤジ」が8月20日、アンバーホールで開催されました。久慈管内の消防団で組織する県消防協会久慈地区支部などが主催。会場には、地区の消防団員や市民など約1,000人が訪れました。

ミュージカルは、過疎に悩む山あいの町で暮らす人々と、地域の消防団活動を面白おかしく描いたもの。当日は、市消防団ラッパ隊によるファンファーレで華々しく幕開けしました。

観客はステージ上で繰り広げられる人間ドラマに、消防団活動の重要性を確かめるとともに、地域で成り立つ消防団の大切さを感じていました。



大迫力！だけど、どこかコミカルな演技を展開

## オリンピック選手と交流

ふれあい指導事業水泳教室

児童に水泳の楽しさを知ってもらおう—というふれあい指導事業水泳教室は8月30日、大川目小学校の5—6年約50人が参加して福祉の村屋内温水プールで開かれました。講師は、アテネオリンピック水泳競技200mバタフライ・元日本代表の長田友喜子さん。現在、甲斐市（山梨県）を拠点に水泳教室などを開いており、はつらつとした口調で「バタ足はサッカーのように足の甲で蹴りましょう」「呼吸は斜め後ろの天井を見るように顔を出しましょう」などとわかりやすく説明。児童たちは楽しく水泳を学びました。

桜井優果さん（6年）は「実際に泳いで見せてくれるからわかりやすい。息継ぎや手の動きが出来るようになった」と喜んでいました。

長田さんはその後、6年生と給食を食べ、「オリンピックへの道」と題して講演し、交流しました。

## 地元誇るきっかけに

山形中で地場産業を体験



たっくさん食べておっきくなってね〜

山形中学校（新毛助直校長、生徒66人）の1年生21人が、8月23—24日の2日間、ハウレンソウ栽培、木炭生産などの地場産業を体験しました。

短角牛農家の落安兼男さん宅では、5人の生徒が牛へのエサやり作業を体験。草を刈り、集め、食べさせるという作業を、額に汗を浮かべながら頑張りました。下館美郷さんと細越美里さんは「最初は怖かったけど、エサをやっているうちにかわいくなってきた。短角牛のような珍しい牛が山形にいるのはすごいことだと思う」と誇りを感じていました。落安さんは「この中から地元に残ってやってくれる人がいれば」と、生徒たちの将来に期待を寄せていました。